

【編集・発行】
 茅ヶ崎市教育委員会
 茅ヶ崎市文化資料館
 〒253-0055
 茅ヶ崎市中海岸 2-2-18
 TEL&FAX: 0467-85-1733

茅ヶ崎 自然の新聞

平成20（2008）年春号【278号】

暦 も春になり、文化資料館周辺では春の訪れを感じられる光景がよくみられます。ビオトープではアズマヒキガエルの幼生（オタマジャクシ）がかえったり、ハシボソガラスがヒマラヤスギの上に巣をつくってヒナを育てたり、シジュウカラは館の敷地内にある2つの巣箱で巣作りをし、産卵、抱卵を経て、当紙の編集を行っている5月初旬は、忙しそうにヒナに餌を運んでいます。また、ハマヒルガオも開花しています。これから夏へと季節が移り変わる中で、また多くの自然に関する発見があると思います。その際は、ぜひ文化資料館まで情報をお寄せください。

※「茅ヶ崎自然の新聞」は本号から季刊発行になります。



（文化資料館 須藤 格）

もくじ

ちがさき自然情報	2
赤羽根にイノシシ	2
ウグイスの初鳴きをきく	3
花ごよみ	4, 5
サケの漂着	4-5
サザンカとメジロ	5
嵐	6
ツバナの思い出	7
ビオトープの模様替え	7
案内	8



赤羽根にイノシシ…2



嵐（クシバナウミエラ）…6

<http://city.chigasaki.kanagawa.jp/shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp>

資料館へのメールはQRコードから➡



Nature Of Chigasaki In Brief

ちがさき自然情報

赤羽根にイノシシ出没騒動

2007（平成19）年9月18日、藤沢市猟友会の方が見えて、数日前から湘南カントリー内にイノシシ2頭が出没し追っていたが、赤羽根山に逃げ込み、山から集落に降りてくるので注意をするよう指示があり、近隣の家に伝言した。今まで、タヌキ、ハクビシン、アライグマ等の農作物被害や捕獲の話は聞いたが、イノシシは初めてで瞬時に耳を疑った。イノシシは体も大きく移動範囲も広い。農作物の被害は甚大で、人にも危害を加えるため、大変困ったと思い、昔のイノシシ被害はどうであったのか赤羽根の地誌を調べてみたら、元禄7年（1964）に赤羽根村などの4つの村で、イノシシ、シカが田畑を荒すので、鉄砲の使用による駆除を請願した記録（地誌）があった。これ以降も被害はあったと思われるが、その記録は見あたらない。地域の古老（私も古老のはしくれ）も、ほとんどの人がイノシシの出没は記憶にないとのことだった。

皆、初めての経験で大騒ぎになってきた。20日の夜から、中赤羽根の西光寺周辺の人家の庭まで入り込んだとの目撃情報や、自動車の前を横切り交通事故寸前の危険な目にあった人があり、自治会の役員はその日から連夜にわたり、地域のパトロールを実施し出没に備えた。大変ご苦労様でした。

その後、とうとう我が家にも出没した。朝起床したら周囲から悪臭がするので見てみると、前の畑にある生ゴミ処理コンポストが掘り返され大きな穴が開いていた。これが悪臭の原因だった。前の畑には、イノシシの好物のサツマイモ、ラッ

カセイ、ダイコン等の野菜が作付けしてあったが、それらに被害はなく、もっぱら落葉が堆積したところを掘り起してミミズ、昆虫類を食べている。また、畑の数ヶ所に大小2種類の糞があり、雌雄2頭のイノシシであると確認できた。



その後3晩連続して我が家の庭に現れ、相変わらずゴミ置場や落葉の堆積地を掘り起していたことを自治会のパトロール隊が確認したとの報告があった。

中赤羽根地域で調べたところ、農作物の被害はなく、各家庭でもゴミを掘り起してミミズや昆虫を食べていたとの報告だった。しかし、隣の上赤羽根地区の話によると赤羽根山の上の畑では、サツマイモ、ラッカセイ、エダマメ等に相当の被害が出たとの話だった。その後、猟友会の方の話聞いたところ、赤羽根山の南斜面の崖の上がイノシシの通り道なので、そこにワナを設置するとの話だった。今年はドングリ等の木の实が大豊作なので、イノシシは丸々肥えているとのことであった。25日早朝に5ヶ所にワナ（ワイヤ式）が設置され、翌26日に市担当者、自治会長と一緒に「立入禁止」の看板を設置したが、山は田畑と違って自由に出入りが出来るので心配だった。

最近、山に散策に来る人が多くなったが、赤羽根山の背中部分にある歩道は

途中で切れてしまうために山に直接入らないと歩けない状態である。また、赤羽根山は、学校の自然教育の場所としても利用されている。今年は室田小4年生の昆虫教室、松林小6年生の斜面林崖の土層研究の計画があったが、イノシシ騒動のために場所の変更や日程の調整等で先生方も大変心配された中、無事終了したので胸をなでおろした。

10月8日、ゴルフ場内で、雄(体重70kg)1頭が捕獲されたとの報告が市担当者からあった。未だに1頭は逃走中だが、その後12月末までの目撃情報はないとの回答が入っている。

今回のイノシシの出現についての地域での話は、

- 1.この地域内の山で繁殖している。
- 2.相模川を泳いで渡ってきた。
- 3.出沒したイノシシは農作物を荒さずに落葉等をあさりミミズ等を餌にしていたので、どこかで飼育されていたイノブタが逃げ出した。

以上の諸説が話題になっているが、それが真相か調査中である。

猟友会の方の話を伺うと、今年の4月にシカが初めて茅ヶ崎に出沒したという。このシカは相模川を泳いで渡ったのを確認したと言う。ちなみにこのシカは、藤沢市内で捕獲されたとのこと。地域の山林が開発により少なくなったため、そこでの繁殖も困難になりつつあり、また相模川を泳いで渡ったという事例もあることから今少し状況調査をしないと何とも言えないとのことである。

常識的には今まで相模川以東にはイノシシはいないと云われてきたが、今回の件や先日の新聞でも横浜市青葉区こどもの国内で捕獲されたとのことから、県全体に広がっているとも考えられる。「1頭のイノシシが捕獲されてから3ヶ月あまり目撃情報がなく、今回の件は終息宣言を出しても良いのではないか。」と市環境

保全課に問い合わせたところ、未だ1頭が逃走中であり、しかも2月いっぱいまでが猟期なのでそれから判断するとのことである。

(参考資料)

神奈川県イノシシ捕獲頭数と農作物被害額(神奈川県緑政課)

● 猟期内(11月~2月)

2005年 300頭

2006年 517頭

● 農作物被害を防ぐため駆除

2005年 305頭

2006年 737頭

● 農作物被害額

野生鳥獣被害 1億8,000万円

(内イノシシ4,600万円)

内訳 果樹 2,600万円

野菜 1,000万円

イモ類 600万円

● 主な生息地 県央から西部にかけ

● 被害の大きい市町村

小田原市 2,000万円

伊勢原市 700万円

● 県全体の生息数は不明

(赤羽根 大山末義)

ウグイスの初鳴き聴く

2008(平成20)年2月初旬から続いていた快晴(寒い暖かいは別として)も本日26日は久しぶりのくもり。朝は寒さも厳しく、また夕方からは雨になるであろうとの予報のところを、買い物に出掛けると、小生宅の近所の中海岸3丁目にてウグイスの初なきを聴きました。

今年の初鳴きは割りと良い声で鳴いていました。

茅ヶ崎市内でも北の方では今年は若干早かったのではないのでしょうか?

情報をお知らせいただければ幸いです。

(中海岸3丁目 星野 利行)

10月の柳島海岸の花ごよみ

2007（平成19）年10月、ポツポツと今にも落ちてきそうな曇天のもと柳島記念館を出発しました。参加者は、齊藤、吉田、河野、石井、それに「結の会」の内田さんと門馬さんが参加してくださいました。

入口左側にあるキカラスウリ、アオツツラ、フジ、ヤブガラシ、ヘクソカズラなどのつる植物は、いつのまにか30メートルぐらいにわたってサンゴジュの並木を被いつくし、見事なマント群落をつくっていました。見上げるとキカラスウリは小さなスイカのような果実をいくつもぶらさげていました。今の季節は、キク科の植物やイネ科の植物、タデ科の植物、つる植物などが小さな花や実をつけ楽しませてくれます。小さなブドウのように房状で粉白を帯びた黒紫色の実をつけたアオツツラフジと小さく紅色に熟した実をつけたヒヨドリジョウゴが絡み合っていて、カメラを持っていけばベストショットという光景に出会いました。どんより暗い空の色のせいでしょうか、オオバイボタ、サンゴジュ、アオキなどのクチクラ層が発達した常緑樹の葉は妙に黒光りして見えました。

海に続く道沿いにあるセンダングサは、数本ですが健在でした。センダングサは、海岸に出ても数本見つかりました。通称サーキット広場では、ハイメドハギが枝を八方に広げて地面に這い、小さな紫色の花が満開でした。再び海に出ると無数のウスバキトンボの群でした。いつのまにか空もすっかり晴れて海風が心地よく感じられました。ウスバキトンボは毎年東南アジアの熱帯地方から飛来し、各地で世代を繰り返しながら北は北海道まで北上するといわれています。にもかかわらず、日本の寒さに耐え切れずに成虫、卵、幼虫、さなぎのすべてが死滅し

てしまうそうです。そして翌春また南から渡ってくるのです。絶望的な意味のない飛来を何故繰り返すのか不思議でなりません。

今回、マルバアカザかコアカザか判定のつかなかったものを家に持ち帰り調べたところ、葉の切れ方からいってシロザのようでした。後日、もう一度海岸に行ってアカザ類を採集してきて調べました。下の方の葉が3つに切れこんでいるのはやはりシロザのようです。また葉が厚くて細長く、主脈しか見えないのはホソバアカザかカワラアカザのようです。『神奈川県植物誌』によるとマルバアカザ、カワラアカザは花序軸に円柱毛があるとなっていますが、花が込み入っていて実体顕微鏡で見てもよく分かりません。来年になったらきれいな標本を作って柳島海岸のアカザ類をきちんと確認しなければと思っています。

（東海岸南 石井準子）

サケの漂着

2007（平成19）年11月2日、午前4時ごろ、東海岸のヘッドランド東側に77センチ長のサケが漂着しているのを知人が犬と散歩しながら発見した。



午前7時ごろ私が犬の散歩で海岸に出たところ、別の知人にサケの漂着の件を伺い、発見者の方の自宅へ向かった。写真を撮り、県立生命の星・地球博物館に電話を入れたが、あいにく担当の瀬能学芸員は休暇とのことであった。過去に、私が深海魚のミズウオを標本として届けたことがある。今回は、発見者の方に県

立生命の星・地球博物館までお届けをお願いした。茅ヶ崎から同博物館への標本の提供は2件目となる。

(菱沼海岸 井川洋介)

サザンカとメジロ

我が家の庭に一本のサザンカがあるが、今年も11月から、ボツボツ咲き出した。正月には満開になってピンク(赤)の花弁と黄色の雄蕊(オシベ)と雌蕊(メシベ)が色鮮やかに盛りになったころ、つがいのメジロがどこからともなく飛んできて、サザンカのミツを吸い、やがてつがいで飛び去っていく。寒い朝の日は、1日に2、3回きてサザンカの小枝や花弁にぶらさがってブラブラしながらミツを吸っている。

「あっ、また来たヨ。」と家族に声をかけ、その愛らしいメジロを見つめました。いつまでもミツあさりに来て欲しいが、冬が去って春になればサザンカも花弁が散って常緑の葉っぱだけになってしまう。つがいのメジロの癖は何処なのか、と思いつめ今日この頃です。

山茶花やツガイ目白の癖何処

卓山

(幸町 森久保 卓)

12月の柳島の花ごよみ

2007(平成19)年12月4日、快晴。本日の参加者7名(11月の花ごよみの観察は中止しました)。

柳島の歩道橋を降りてキャンプ場へ曲がる角にキカラスウリが繁茂していて、いろいろな木を覆い電線にまで巻きついている。今はもう枯葉となり、数えきれない程の実をつけている。黄色の実も多かったが褐色に枯れているものも多い。1つもらって種を見ると小槌型ではなく

(カラスウリの種子は、大黒様のうちの小槌といわれる)、スイカのようなキカラスウリの種は普通の種だった。

ヤツデは11月から12月に花が咲く。枝先に白い小さな花がまとまって球状にかわいらしく咲く。ほとんど両性花だったが下部に雄花がつくという。(雄蕊先熟)

ツルオオバマサキはマサキの海岸型です。三浦岬には下枝が蔓のように這うものがあるが、茅ヶ崎にはほとんど這うものはない。ただ葉はやや大きく厚みがある。

エビツルもノブドウも、もうほとんど葉を落とし蔓だけになっていたが、実が残っていて実のつき方で判定できるということです。果物のブドウのように円錐花序に実をつけるのはエビツルで食べられる。集散花序(ムラサキシキブのような)に実をつけるのはノブドウで食べられない。

エノキの葉がたくさん落ちていて、見上げるとエノキの大木があって美しく黄葉していた。クワの葉も黄葉がきれいだった。

アキグミが赤く熟していた。食べても美味しい実ではない(ナツグミは美味しいので庭にも植えられるが、この辺にはない)。

スイカズラは、忍冬という名にふさわしく、冬でも葉が暖かそう。でも半常緑なので真冬は少しさみしくなると思う。

海岸に出ると、今日は風もなくよく晴れていて気持ちよかった。ヒドリガモやユリカモメが何羽も波打際まで飛んでいた。

(東海岸 吉田弥生)



嵐

2008（平成 20）年4月8日、風雨が強く日本列島各地で被害が出ました。菱沼海岸のゴルフ練習場の入り口にある数百キロもあろうと思えるレール付きの鉄扉が倒れていました。翌日の朝、海岸に出たところ、全長25cmくらいのウミエラを見つけました。ウミエラには特有のカニが7匹もついていたので、びっくりしました。カニといってもウミエラカニダマシといって、ウミエラだけに寄生します。私も30年以上毎日海に出ていますが、このようにたくさんのカニがひとつの個体についているのを見るのは初めてでした。普段は、めったに発見できない種類と考えていました。テングニシという大きな巻貝の卵が流木の板の上に産み付けてあるもの、サメとアカエイの稚魚、ツノザメ科のフジクジラも漂着していました。



クシバネトゲウミエラ



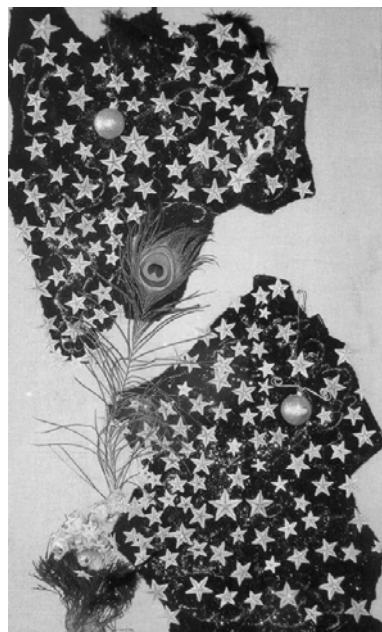
ウミエラカニダマシ

4月9日付の朝日新聞の夕刊に「珊瑚の敵、本州へ飛び火」という沖縄県の石垣島からの記事を読みました。これはヒトデの中でも最大級の生き物で、これが発生すると珊瑚やほとんどの貝類はエサ

として食べられてしまいます。特に日本は紀伊半島から南の海に向かって珊瑚礁が存在しますが、ヒトデに食べられると死んでしまい白くなってしまふということです。全く恐ろしいことです。

昨年はエチゼンクラゲが日本列島を襲い、多くの魚が食べられました。その上、漁師さんたちの網にもかかり網の中の魚はもちろん網も破られ、被害甚大です。茅ヶ崎の海岸でも、小型のエチゼンクラゲが打ちあがりしました。新江ノ島水族館の学芸員の方に写真をメールして問い合わせたところ、瀬戸内海に棲むエチゼンクラゲともいわれ、同じ種類のクラゲと考えているそうです。

昨年、茅ヶ崎の海岸でオニヒトデは見つかりませんでした。モミジガイ、ヒラモミジガイといった小型のヒトデが多く発生しました。東海岸で1cmくらいのモミジガイ、ヒラモミジガイが大量に打ちあがりしました。海に戻ると貝を食べ尽くしてしまうので、少し緊張しながら拾い集めました。ヒトデはカイメン動物同様、放っておくと悪臭がします。乾かしてから塩素系漂白剤に15分ほど漬け洗い、乾燥させましたが、悪臭は取れませんでした。今年、酸素系漂白剤に漬けて乾燥させたところ、悪臭が激減しました。



ヒトデは星のような形をしているので、夜空の模様を作れないかと近所に住んでいる工芸デザイナーの方に相談して、国産の人工衛星、土井隆雄さんが活躍したエンデバー、そして天空の星をデザインしてもらい、写真のような展示物を作りました。2月には平塚博物館の「漂着物を拾う会」の展示コーナーに展示しました。写真左下のフジツボが星を空に向かって噴出している様子をイメージしたものです。上には人工衛星が飛び交っています。

（菱沼海岸 井川洋介）

ツバナの思い出

1933（昭和3）年7月、小生の父小原敬介が南満州鉄道株式会社（満鉄）熊岳城農業学校長兼熊岳城農業実習所長に就任し、家族同行で渡満した。

熊岳城農業学校は中国人を対象とする就学年数3年コースの農学校である。一方、熊岳城農業実習所は日本人を対象とする就学年数2年の教育機関で、卒業後農園の経営を希望する者には満鉄が資本金2千円、10町歩位の農地を貸与した。私が転校した熊岳城尋常小学校では、修学旅行に3年生の時は営口、4年生の時は遼陽、5年生の時は安東（現在の丹東）に行った。安東の沈江山にはソメイヨシノが咲いていた。鴨緑江にかかっていた橋は90度に関き、船が通るのに便利であった。

小生達は対岸の新義州に渡った。修学旅行の時、友達がチガヤの花穂のツバナを持ってきていた。もらってかんでみるとかすかに甘味が感じられた。今では遠い思い出である。

（藤沢市藤が岡 小原 敬）

ビオトープの模様替え

文化資料館の敷地の北側にはビオトープが3つあります。

5月9日、各々のビオトープはブルーシートの劣化等により、雨が降っても、保水できず、水をたよる生き物も棲めないため、3つのうち西側と東側の2つのビオトープのブルーシートの交換作業を行いました。

西側のビオトープは、カサスゲが池全体を覆い、細いカサスゲの根がシートに食い込み、多くの砂も入っていたため、シートの除去作業は特に大変なものでした。それと同時に、新しいブルーシートを透明なビニールシートで何重にも巻く作業を行いました。その新しいシートを窪地に敷き、その周りを敷石で固定しました。

東側のビオトープは、設置してあるブルーシートと透明のビニールシートを利用しました。雨水が資料館の屋根から流れ込むよう工夫しました。午前、午後の作業を通じて2つのビオトープを模様替えすることができました。

池の周りにカサスゲやアゼナルコ、ユキノシタ、コウヤワラビなどを植えました。やがて植物が育ち、トンボ類やカエル類などの生き物が棲み、近い将来ここで繁殖してくれることでしょう。今回の作業にご協力いただいた方々に感謝いたします。



（文化資料館 小室明彦）

おしらせ

●「茅ヶ崎自然に親しむ会」

『足柄上郡・上大井の棚田を訪ねる』

日程：6月15日(日)

問い合わせは、

安井利子(52-3856)まで

●「清水谷を愛する会」

『定例会観察会』

日時：毎月第一日曜日

午前9時半～正午

集合場所：市民の森駐車場

『保全活動のご案内』

日時：毎週火曜日

午前10時～午後2時半頃まで

問い合わせは、

佐々木三智雄(82-6643)まで

●「柳谷の自然に学ぶ会」

『夏の谷戸を見よう』

日時：6月22日(日)

午前10時～12時ごろ

『水生生物を見よう』

日時：7月27日(日)

午前10時～12時ごろ

共催：(財)神奈川県公園協会

集合場所：県立里山公園パークセンター

問い合わせは、

野田晴美(51-8489)まで

●「駒寄川水と緑と風の会」

『駒寄川を遡る』

日程：6月1日(日)

『水質検査 水生生物の調査』

日程：7月6日(日)

集合：民俗資料館(旧和田家)

時間：13時30分から

問い合わせは、

池田尚子(52-8919)まで

●「三翠会」

三翠会では、市内の川や水辺の生きもの調査やタゲリをはじめとする野鳥観察、お米(タゲリ米)づくりのお手伝いなどに取り組んでいます。ご協力いただける方は、下記までご連絡下さい。

事務局：河村まき子(87-8313)

鎮守の森の調査

鎮守の森といわれる社寺林は、社寺境内の特性ゆえ、その地域本来の植生などが保全されていると考えられています。

文化資料館では定期的に勉強会を開いたり、市民の皆さんと協力して調査を実施しています。ご興味のある方は文化資料館(0467-85-1733)までご連絡ください。

自然の新聞の記事募集!

「茅ヶ崎 自然の新聞」では、みなさまからの記事や写真の投稿をお待ちしております。メール、ファックス、お手紙等でお寄せください。

小中学生のみなさんからの記事もお待ちしております。絵やメモなど、みなさんが茅ヶ崎の自然について気づいた、感じた小さなことをおしえてください。よろしくお願ひします!

〒253-0055 茅ヶ崎市中海岸2-2-18

茅ヶ崎市文化資料館「茅ヶ崎自然の新聞」係まで